

## 高等学校と大学の深い絆 高大連携

大学と地域社会が相互に支え合う未来へ

### Interview

良永康平 高大連携センター長  
山本冬彦 学校インターンシップ取組責任者

関西大学では、地域と連携し社会に貢献することを大きな柱のひとつと考え、次世代の育成を目的とする高大連携事業を推進している。高校生が「大学への学び」に直接触れられる出張講義や公開授業をはじめとする各種セミナー、本学の学生が学校現場での教育補助を通しキャリアデザインを行う学校インターンシップ、小・中・高校等の先生方への夏期教員研修など、その幅広い事業内容について、高大連携センター長 良永康平教授と学校インターンシップ取組責任者 山本冬彦教授に話を聞いた。



高大連携事業について語る、良永康平教授(左)と山本冬彦教授

#### ▶大学の授業を高校生が体験

——セミナー事業の目的について。

良永 セミナー事業には、本学の先生が高校に出向いて講義する「Kan-Dai 1セミナー」、高校生が本学を訪ねて大学の授業に参加する「Kan-Dai 15セミナー」、テーマに沿って複数名の講師がリレー講義を行う「Kan-Dai ネットレス・セミナー」、夏(春)休み等を利用した短期集中型の「Kan-Dai 3セミナー」などがあります。とくに「Kan-Dai 1セミナー」の受講を希望する高



Kan-Dai 1

校は年々増加しており、2008年度は年間延べ372校にのぼります。また、今年度の提供可能講義は190タイトルになりました。他のセミナーも徐々に拡大中です。大学が求められている社会貢献の一環にこれらのセミナーがあり、高校生に実際に大学の授業を受けてもらい、学問とはどんなものなのか、大学でどんなことが勉強できるのかを知ったうえで、将来や進路を考えてもらうことが目的です。

——新しい展開であるWEB配信とは？

良永 今年度は動画による体験授業のWEB配信をスタートします。これまでは先生の出張が近畿圏に制約されており、セミナーを受講できる高校生に限られていました。体験授業をWEB配信することで、遠方の高校生も大学の学びに触れることができ、クラブ活動などで忙しい高校生も自分のあき時間に観ることができるようになります。まずは5つの授業の配信を開始し、徐々に広げていく予定です。

#### ▶期待を担う学校インターンシップ

——2005年、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された学校インターンシップとは？

山本 学校インターンシップは学生が大人になっていく新しい

仕掛けの場であり、社会連携の模索でもあります。この制度は2003年、大学と近隣の府、政令都市の教育委員会が包括的な連携協定を結び、高校に学生を派遣することからスタートしました。当初は希望する学生が87人、受け入れ高校は38校。その後、学生からの要望により、吹田市や豊中市の小・中学校への派遣も実現しました。現在では毎年約200人の学生が参加し、受け入れ希望学校は約1000校。受け入れ待ちの学校も多くあります。ボランティアと違ってインターンシップは研修なので、学校に行く学生に対して事前に学校業務講座、ビジネスマナー講座、面接などを行います。インターンシップ中の学生は業務日誌を書き、担当の先生のコメントをもらい、それを大学で評価し単位を出す、という流れです。短期型・長期型があり、前者は大学が休みで小・中・高校が授業・活動をしている7月下旬～9月中旬に毎日通い、学園祭の補助、夏休みの補習の補助などを行います。後者は秋学期(9月下旬～12月下旬)の授業の合間に自分で学校と時間調整し、週に1～2回、学習補助や進路指導補助、クラブ活動の指導などを行います。

——当制度の特色は？

山本 教員志望でなくても参加できるという点が一番の特色です。いろいろな人が学校現場を見ることは大事です。学校側としても、将来親になったときに学校の先生のことや業務の様子を理解してくれていればありがたい。実際、政治家になりたいから学校を見ておきたいという学生なども参加しています。

また、今の学生は教員を志望していても自身が適しているのかわからない場合があり、学生にとっては進路を見極める機会になります。逆に自分が教員に向いてないことがわかるということも大事なことです。受け入れ学校側からも、学生が入ってくることで現場の様子が変わる、教員高齢化の中で若い力が入ることのすばさを実感した…と評判は良好です。

良永 学校現場は教科を教えるだけで手いっぱいです。それ以外の課外活動、学習のアドバイス、進路指導、学校行事の補助…といった場面で大学生は非常に役立ちます。大学生にとってもその経験が人生に役立ち、お互いのニーズが合致しているのです。



「Kan-Dai 3セミナー」文学部で開催された考古学ウィークエンドセミナー

#### ▶高大連携から地域社会との連携へ

——その他の活動やこれからの展望は？

山本 大阪府教育委員会・大阪市教育委員会からの依頼により、小・中・高校等の教員向けに夏期教員研修を行っています。教員の知識を広めるための教養講座として、受講する先生方からも非常に興味深いという声を頂いています。

良永 今後は高校や教育委員会との連携事業や併設校との接続に加え、地域社会との連携にも力を入れていきます。これから関西大学は4キャンパスになり、堺市や高槻市との連携のなかで、高大連携も必要となってきます。地域と教育の活性化は一体のものなのです。

山本 大学が地域に対してどういう連携や手伝いができるのかは大きな課題です。例えば商店街の活性化や地域の課題について、教員や学生が出向き、手伝いをしたり研究課題にするなど、可能性がある限り双方を繋いで教育の場を生み出すことは、学生にとってもよいことです。大学の中だけで教育するというのは閉じた関係です。今、社会に対して様々な発信をすることが、大学の第3の使命なのではないでしょうか。

良永 高大連携事業の実施による手応えも出てきています。学校インターンシップに参加して満足していない学生のフォローを含め、出てくる問題をどう解き明かすかが次のステップです。

#### ■社会貢献・連携事業／地域連携

##### 上海万博に「豊臣期大坂図屏風」復元画を出展

4月27日、千里山キャンパスで大阪府と大阪市等による「上海万博大阪出展実行委員会」が開催され、2010年の上海万博で、第1学舎に展示中の陶板画「豊臣期大坂図屏風」を最新の複製技術を用いて再現して出展することが決まった。当日の記者会見では、本学から河田第一学長と高橋隆博博物館長が出席。歴史的価値の高い貴重な資料とされている屏風絵の説明を行った。

##### 連続市民講座・町街塾を開講

関西大学と天神橋筋商店連合会、大阪市信用金庫などが共催する「町街塾」の初講座が2月18日、大阪天満宮会館で開

かれた。同講座は住民自らが街の在り方を再発見し、元気な大阪を取り戻そうと企画された。第1回は落語家の桂福団治さんが「上方に学ぶ芸能作法」と題して講演した。

##### 3大学共同の開設延期について

関西大学、大阪医科大学、大阪薬科大学は、来年4月に開設予定だった3大学共同の新学部について、開設を延期すると発表した。文部科学省が大学設置基準の内容を、当初の見込みより厳格化したことが背景にあり、計画の大幅な見直しが必要となった。関西大学と大阪薬科大学は、2011年春に3大学共同を前提とした新学部を開設し、2015年春から大阪医科大学も参加する。



▲WEB配信  
(左)：システム理工学部 電気電子情報工学科 大橋俊介准教授 「電気自動車省エネ社会を実現する日」  
(右)：文学部 田中俊也教授「おもしろ心理学セミナー」

# WEB